

記載に関する注意点

記録は原則として保護者にしていただくこと。

集団場面の様子が不明と言われる場合、担任の保育士等とよく相談の上、保護者に記載していただくこと。

情報を共有することが大事である。特に問題が園という集団場面で生じている場合、保護者の問題認知の手掛かりが得られるように努力する。

問題指摘にとどまったり非難されていると受け止められないような配慮が必要である。

自由記録の項目はなるべく具体的に書いていただけるようにする。又、その場合、保護者がどのように対応しているのかまで書いていただくと良い。以下にその読み取り方のポイントを示す。

イライラの問題 子育て不安や虐待の傾向をチェック。

ヒヤリ、ハットの問題 子どもの行動上の問題。

保護者の危機管理能力や子育ての関心の程度。

困っている点を具体的にあげてもらうことで、園との、あるいは園医との
コンタクトのチャンスとなるように。すぐに解決してしまうことは避ける。
できれば、具体的なアドバイスを提供しながら経過観察をして下さい。

プライバシー保護に配慮すること。秘と書面上に表すなど、保護者にもプライバシーが保護されていることが分かるようにすること。